

愛知県環境審議会廃棄物部会（2026 年 7 月 8 日開催）における委員意見への対応について

	意見等	対応
1	資料 5 の第 3 章 計画目標に記載している「目指す愛知の未来」の「サーキュラーエコノミーが浸透した循環型社会による環境負荷が最小化された『環境首都あいち』」は、長くて重複している部分があるため、天然資源の投入を減らすという一番の目標に向けて最終目標が書かれていれば十分である。	「目指す愛知の未来」については、「天然資源投入量と廃棄物発生量が最小化され、循環型社会が実現した『環境首都あいち』」としました。（P54）
2	循環型社会の形成を目指す上で、脱炭素は切っても切り離せない関係であるため、少なくとも最初の前書き等でしっかり記載してほしい。	脱炭素に関する記載としては、次期計画内では次のとおり記載しました。 ・第 1 章 1（2）の基本的な考え方において、脱炭素化に繋がる取組の重要性について言及（P3） ・第 2 章 1（3）の資源循環に関連する環境面の状況において、カーボンニュートラルとサーキュラーエコノミーの関係性について記載するとともに、国際的動向、国内の動向及び本県の取組について記載（P8） ・第 4 章の施策の展開において、脱炭素に関連する施策を施策 2（4）及び施策 3（4）に記載（P69、72）
3	産業廃棄物の最終処分量の目標設定にあたっては、現実的に達成が可能な範囲で、国の目標を意識して設定してほしい。	産業廃棄物の最終処分量の目標設定については、国の目標を参考に、基準年度の 2024 年度実績から 8.8%削減する 694 千トンとしました。（P60）
4	第 2 章において資源の利用状況を整理する際に、愛知県を中心とした経済圏を形成しているため、参考として岐阜県、三重県、静岡県、長野県といった近隣の県を含む広域での資源の利用状況を記載したほうがよいのではないかと。	資源の利用状況（物質フロー）については県内における状況を調査しており、近隣県を含めた広域での利用状況については把握しておりません。 ただし、御指摘のとおり本県は近隣県と強い経済的繋がりがあため、第 2 章 2（3）の資源の利用状況（物質フロー）の課題及び今後の展望において、「物質フローの取扱いについては、本県の経済活動が近隣県と強い繋がりがあことを念頭に置いた上で、本県の産業・経済構造を俯瞰的に把握することの必要性について記載しました。（P15）